

やまびこ

第106号

平成25年 3月



公益財団法人 **八正会**

巻頭言

「希望に満ちた将来を築く為に」

理事長 玉井義郎

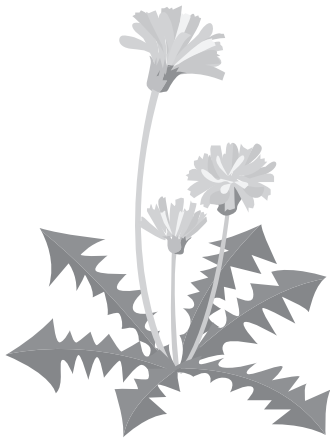
「今日はそのまま明日につながってゆくものではなく、明日も又、決して単純に今日の延長戦上にあるものではない」。

この言葉には二つの意味が含まれていると思います。今日、非常に良い環境下にあるという場合、その状態が明日も続いていくという保証はどこにもありませんが、それを続けさせ、定着させるためには、さらに努力が必要であるという、自らをかえり見る自戒の意味と、もう一つは、今の状態がどんなに悪い場合でも、明日は必ず良い展開が開かれるに違いないと、将来に対して明るい希望を持ち続けることが大事だという意味です。

共に、今日を、明日を明るく見ていくという前向きな気持ちで、さらに積極的な考え方にたってプランを練り、前進のためのアク

ションを起こしていくことが将来の良い展開につながっていく大事な条件であると思います。

反省と希望と、明るさはどんな時にも人生を支えてくれます。



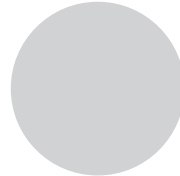
新入会員の紹介

合格おめでとう！

4月より17名の高校生が新しい仲間として入会されます。
温かくお迎えしましょう。



- ①佐伯 拓馬
- ②岡山市
- ③高松中
- ④岡山操山高校



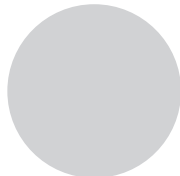
- ①榎原 大毅
- ②赤磐市
- ③吉井中
- ④瀬戸高校



- ①藤原 淳平
- ②岡山市
- ③岡大教育学部附属中
- ④岡山朝日高校



- ①三宅 晟
- ②玉野市
- ③荘内中
- ④玉野光南高校



- ①濱田 恵理香
- ②勝田郡
- ③勝央中
- ④岡山朝日高校



- ①吉川 智也
- ②倉敷市
- ③福田中
- ④倉敷古城池高校



- ①河本 柚月
- ②岡山市
- ③岡北中
- ④岡山一宮高校



- ①岩田 真央
- ②倉敷市
- ③東中
- ④倉敷青陵高校

プロフィール

- ①氏名
- ②現住所
- ③出身校
- ④入学校



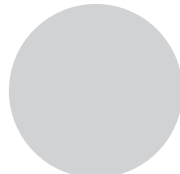
- ①水川 碧
- ②倉敷市
- ③倉敷天城中
- ④倉敷天城高校



- ①松村 優
- ②岡山市
- ③操南中
- ④岡山芳泉高校



- ①酒井 彩夏
- ②倉敷市
- ③琴浦中
- ④倉敷古城池高校



- ①黒住 美恵子
- ②岡山市
- ③興除中
- ④岡山芳泉高校



- ①安井 佑果
- ②岡山市
- ③芳泉中
- ④岡山芳泉高校



- ①宇野 美咲
- ②倉敷市
- ③玉島東中
- ④玉島高校



- ①蘆原 薫
- ②倉敷市
- ③倉敷東中
- ④倉敷青陵高校



- ①合田 紗也
- ②岡山市
- ③福南中
- ④岡山東商業高校



- ①高橋 聖
- ②岡山市
- ③石井中
- ④岡山工業高校

目次

巻頭言「希望に満ちた将来を築く為に」……	理事長	玉井義郎	1
新入会員紹介			
伝統から学ぶ……	理事	南智	1
国際化への取り組み……	〃	岡征二郎	2
新しいことに挑戦を！……	〃	國友道一	5
僕にとつての「高校三年間」……	高校三年	山磨貴幸	6
タイトルなどない……	〃	久富ひかり	7
高校生活を振り返って……	〃	青山悦希	8
追求すること……	〃	合田貴子	9
現役ラスト八正会……	〃	横瀬天宇	10
高校生活を振り返って……	〃	高橋梨夏子	11
「新しい国へ」を読んで……	〃	岸広将	12
活動報告……	〃	西麻実	12
三年間の軌跡……	〃	易智也	13
全国大会について、そして勉強について……	高校二年	石井宏佳	14
新たな目標……	〃	安井彩果	15
最近のマイブーム？（笑）……	〃	斎藤莉華子	16
三年生〇学期とは……	〃	岡本拓人	17
あと一年……	〃	橋野弘道	17
近況報告……	〃	中村樹里	18
今年の目標……	〃	増田真帆	19
二学期を振り返って……	〃	影山俊介	19

おばあさんに感謝……	高校二年	佐伯映美	20
部活動の思い出……	〃	後藤眞依	21
県大会……	〃	吉川江美	22
一年を振り返って……	〃	藤堂政行	23
課題に翻弄されない為に……	〃	山本成	24
「音読」〜英語上達の一番の近道〜	〃	宮田吉朗	25
ふと振り返ってみると……	〃	藤原亮輔	26
今まで、そしてこれから……	高校一年	小林桂子	27
補習だらけの一年間……	〃	清水晃希	28
初!!のスポーツ選手の自伝を読んで……	〃	小西茜	29
最近、感動したこと……	〃	影山姫花	30
Tackle things with thorough thinking……	〃	難波千里	30
最近のこと……	〃	小林遥	32
二〇一三年の決意表明……	〃	小野雅史	33
今年の抱負と私の未来……	〃	萩原萌	33
スキーが好きになりました……	〃	片山遥	34
振り返り……	〃	日名絵里華	36
部活動……	〃	小野龍司	36
まず始めに……	〃	久富聖也	37
歓送会……	〃	井上法子	38
一年間……	〃	笠笑太	39
新年……	〃	木田杏奈	40
編集後記……	〃		41
おたよりコーナー……	〃		42

伝統から学ぶ

理事 南 智

岡山県は他府県に比べて文化財の密度も質も高く、京都・奈良に匹敵すると言つてよい。それだけに文化財の保護は官民挙げての課題であるが、昨年末には残念な事態が起きてしまった。室町時代様式の建物である国指定重要文化財金山寺本堂が全焼し、同時に県指定重要文化財木造阿弥陀如来像も焼失してしまった。文化財保護活動に取り組んでいる一人として誠に残念であり、改めて文化財保護の大切さを痛感している。

ところで、わが国には飛鳥や奈良時代の建築が大切に保護され、伝えられてきている。法隆寺宮大工棟梁であった故西岡常一さんは、法隆寺の昭和の大修理に携わり、法輪寺三重塔、薬師寺金堂・西塔の再建を手がけた方である。そして、飛鳥時代から受け継がれていた寺院建築の技術を研ぎ澄まされた感覚で若い宮大工に伝えてこられた。ドキュメンタリー映画「鬼に訊け―宮大工西岡常一の遺言―」でも知られている。

西岡さんは、建築材について、「千年の檜には千年のい

のちがあり、建てるからには建物のいのちを第一に考えなければならぬ。風雪に耐えて立つそれが建築の本来の姿ではないか。木は大自然が育てたいのちである。千年も千五百年も生きてきたそのいのちを建物に生かす。それがわたしたち宮大工の務めだ」と。そして、最近の製鉄法でつくられた鉄は弱く、「木は鉄を凌駕する」とも。木は切り倒したときより年限がたてばだんだん固くなる。法隆寺の補修のとき、屋根の瓦の重みを取り除いたところ、軒の垂木の端が上に向かってぐっと反り返ったという。飛鳥時代の工人は、この段々固くなり、しかも木は反っていくことを十分計算に入れて、それによって重みを支えることを考えていたのである。

西岡さんは、補修するための檜の丸太を探しに自ら山に入る。檜の丸太がどちら側が南で、どちら側が北側か調べ、反りを計算に入れ、塔が反りでねじれないように、また、支えの力を増すように使う。節の多い南側を重みのかかる構造材に、北側を力のかからない内装材として生かす。

飛鳥の工人たちは、千年後の極楽往生を夢見て千年もつ建物をつくったという。解体修理のとき、建物の内部の木のなかには、まだ十分使えるものがあり、あと千年、あるいは二千年もつかも知れないと西岡さんは書いている。だが、最近のコンクリートの建物は、中に入っている鉄が年

とともに錆びて劣化し、やがて生命を終える。日本の木の建物やヨーロッパの石の建物とは、その耐久性において比較にならないと言つてよい。

木は鉄よりもたないもの、弱いものと思ひ込みがちであるが、必ずしもそうではない。材料を選び、しっかりと設計をし、技能が生かされれば、飛鳥時代の建物のように千年のいのちを保つことができる。もちろん地震にも強い。文化財保護のみならず、こうした職人の技能が近代的な生産の中で生かされることが大切である。日常生活品でも質のよいものは伝えられる。私たちは近代科学や技術のみを過度に信じてはいないだろうか。伝承されてきた技能をバトナタッチし、近代の科学技術の中に取り込み生かすことが必要と思う。

(元ノートルダム清心女子大学教授)

国際化への取り組み

理事 岡 征二郎

教育界で国際化が表面に現れたのは、昭和六十二年八月

七日臨時教育審議会の、教育改革に関する第四次答申による。この答申は第三の教育改革の最終答申であった。この答申から二十余年が経過した現在、日本は国際化の波に取り残されつつあるのではないだろうか。

平成二十四年十月十五日の日本教育新聞によると、文部科学省は、大学の国際化拠点校を四十二校指定し、国際化を後押しするとの事である。平成二十四年度から始まった、「グローバル人材育成推進事業」である。

提言から四半世紀経つて、文部科学省が腰を上げた。若い世代の「内向き志向」を克服し、世界で活躍できる人材の育成を目指し、国際競争力を強化することを狙いとしている。ここでは、若者の内向き志向の実態とその克服の方法を見てみよう。

(1)世界各国の海外留学生ランキング

(二〇〇七年OECD資料)

	海外留学生数(人)	人口10万人あたりの海外留学生数(人)
中国	408344	31
インド	153323	14
韓国	105779	218
日本	55249	43
香港	33471	483

海外留学生の数が最も多い国は中国の四十万人である。インドの十五万人がこれについている。人口規模を考慮すると韓国の海外留学生の多さには目を見張らされるものがある。日本は五・五万人と決して多くない。

(2) 米国におけるアジア留学生の推移

(出展：米国の国際教育協会 単位人)

	1995/96	2000/01	2008/09
インド	330000	550000	103260
中国	400000	600000	98235
韓国	360000	450000	75065
日本	455000	455000	29264
台湾	340000	300000	28065

日本は、1995/96年にはアジアの中で最大の留学生を米国に送り込んでいたが、中国、インド、韓国に抜き去られ、近年では実数自体が減少している。日本の留学適齢人口が減る中、留学先も米国依存から脱却し多様化していることも要因である。

(3) 海外留学生全体に占めるアジア主要五カ国のシェア

1995/96	1999/10	2003/04	2007/08	2008/09
40.9%	41.6%	45.6%	49.3%	49.8%

米国における外国人留学生のうち、アジアからの留学生の比率は1995/96の40.9%から、2008/09の49.8%に上昇している。中でもインド・中国からの留学生の数の伸びは著しく、ついで韓国が続いている。日本は、年々留学生の数が減少している。米国のベンチャー企業では、中国やインドの留学生たちが大きな役割を果たしている。

(4) 米国におけるアジア留学生のアカデミック・レベル

(2008/09 単位%)

	台湾	日本	韓国	中国	インド	大学生	大学院生	その他	OPT
台湾	25.5	57.3	49.4	26.7	15.1	54.6	7.6	12.3	
日本	57.3	21.5	33.9	58.5	68.8	13.6	7.6	7.6	
韓国	49.4	33.9	9.8	6.4	1.7	9.8	6.8	6.8	
中国	26.7	58.5	6.4	8.4	1.7	6.4	8.4	8.4	
インド	15.1	68.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	

OPT：米国の大学を卒業後与えられる一年間の猶予期間のこと

留学生の中味もインド・中国は60%〜70%が大学院生で、台湾は54.6%、韓国でも三分の一が大学院生であり、日本ではわずか21%である。これらのことから考えると、米国とアジアを結ぶ情報通信などハイテ

ク産業のグローバルなイノベーションネットワークから日本が取り残されているようである。

(5) 新入社員のカリキュラム意識

公益財団法人日本生産性本部による「新入社員意識調査」(二〇一〇年十月)

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
A (%)	30.8	27.0	23.4	20.1	18.3	15.8	14.1	12.8
B (%)	31.5	29.8	36.3	39.8	45.9	47.1	55.2	57.4

A…社内での出世するより、自分で起業して独立したい。

B…今の会社に一生勤めようと思っている。

入社動機では、将来性のある会社であることよりも、自分の能力や個性を生かせる先として会社を選んでいる。

- (6) これらの資料から判断すると、現在の日本の若者は、能力を生かせると思える環境に安住し、考え方が内向き志向に傾き、覇気が失われていると思われる。このことに関して、英エコノミスト誌は、日本経済が中国経済にGDP規模で追い抜かれる日が来ていると報じており、日本経済の活力が失われつつあるとも報じている。

(7) 今後の取り組み

このような日本の若者の内向き志向を克服し、世界で活躍できる人材の育成を目指し、国際競争力の強化につ

なげる狙いとして、文部科学省は、平成二十四年度から「グローバル人材育成推進事業」を展開している。

これは英語教育の改革や、海外への留学生拡大などを進めるグローバル化を各大学が加速させることとし、文部科学省はこのような事業に財政的支援をしようとするものである。この事業には二つのタイプが考えられる。タイプAは、全学推進型で、大学全体でその達成を目指す取り組みを対象としており、今年度は一九九五百万円を計上している。

タイプBは特色型で、本構想の対象となる学部・研究科等で達成を目指す取り組みで、二九八五百万円を計上している。これらのような取り組みは学部の専門性に加え、英語力・コミュニケーション力・科学技術を使った問題解決能力を育てるものである。この事業を通して、学生が海外での研究の状況を十分に把握した上で、大学や大学院での高いレベルでの研究に取り組むことが可能である。

(元旭川荘療育センター児童院顧問)

新しいことに挑戦を！

理事 國 友 道 一

中学校から高校、高校から大学、大学から社会へと階段を登るにつれて、自分を取り巻く世界がどんどんと広がってゆく。中学校までは地域との結びつきが強いが、高校は県下全域、大学に入ると全国あるいは全世界へと人の輪が広がってゆく。それにつれて、今までに接したことのない考え方や事柄に出会う機会も多くなる。特に最近では国際化の時代に入り、新しい考え方や文化に接する機会がどんどんと多くなっている。新しいものに出会った時、それを受け入れその中に積極的に飛び込むのは不安なものだ。しかし、古い殻に閉じこもって新しいことや世界に目を向けなければ、リスクが無い反面進歩も無く、現状維持がせいぜいであろう。

近年、日本の若者は「内向き思考」にあるという指摘がある。実際に統計を見てみると、「留学をしたい」と考えている日本の高校生は半数以下で、米国・中国・韓国に比べるとその割合は低い。これが留学に限った話ではなく、チャレンジ精神を失い新しいことに挑戦する意欲の欠如に

つながるものであれば心配だ。

皆さんにはどんどん新しいことに挑戦をしてほしい。中でも、できるだけ多くの人に接し、多くの事を学び吸収する姿勢をもってほしいものだ。人間はそれぞれ異なった考え方をもっており、異なった考え方や価値観がぶつかり合うことによって集団は活性化してゆくものである。そのためにはお互いが異なる考え方を尊重し、自分の足りない点を補おうとする姿勢をもつことが大切だ。論語の中に、「学べば則ち（すなわち）固ならず」という言葉がある。

「学ぶことによって独善的で、頑固でなくなる」という意味である。今、世の中は激動の時代を迎えている。生活の場が広がるにつれて多くの人や目新しいことに出会うであろうが、この出会いを通して多くの事を学び視野を広げてほしいものだ。人間は学ぶことによって、生きるための知識や能力を身に付けることができるものだ。また、学ぶことによって旧来の価値観や偏見に固執することなく、多くの人と共生できる柔軟な考え方を身に付けることができるものだ。

（岡山県青少年教育センター 閑谷学校 校長）

僕にとつての「高校三年間」

岡山朝日高校三年 山 磨 貴 幸

センター入試が終わり、もうすぐ一週間になろうとしています。三年前、「高校つてどういう所だろう。」と、期待と不安で頭が一杯だった僕にとつては、大学入試は「いつか受けるもの」ただそれだけの、漠然としたイメージでしかありませんでした。しかし、本当に時は矢のように過ぎるもので、気づけば入試の第一ラウンドが終わっていた、そんな所でしょうか。少し早いかもしれませんが、今の僕が感じるところの、僕なりの高校三年間を省みたいと思います。

僕がこの三年間で変わったなあと思うことは、「少し大人になった」ことと「視野が大きく広がった」ことの二つに集約されます。高校は、やはり相当量の勉強が課されるのと同時に、生徒に比較的自由の幅を与えてくれる場だと思えます。僕の高校はこの「自由」という面ではかなり生徒の好き勝手にさせてくれる校風だったので、特に学園祭等では、皆との盛んな意見交換の下で、力を入れる程出し物のレベルが上がり、像が固まってくる実感を得るのが楽

しくて、必死に取り組みました。その経験は、自由には付き物である責任の重さや、友人の大切さ、人の個性の見抜き方に致るまで、様々なことを教えてくれました。勉強での知的成熟は言う間でもありませんが、今述べた課外活動、そして三年間共に向きあった弓道部での経験で、僕は大きく成長できたと思います。その意味で、この三年間は今までの年月の中で最も密度が濃い、有意義な時間だったと、僕は確信しています。

三年という長きに渡って援助して頂いた八正会様には、本当に感謝の言葉では言い尽くせないご恩を頂きました。金銭的援助のみならず、毎年の夏・秋の研修会の機会まで用意して下さい、それを楽しむ中で毎回気付きを得ることができました。夏のデイベート、スタンプ、秋の社会科見学等、八正会の方々が僕たちのために準備して下さいる企画の奥底には、高校生の今現在すぐに役立つ物でなくても、社会に出た後で「ああ、トンボ奨学生でよかった。」と僕たちが思える様にと、様々に配慮して下さいる皆様の深い愛情があるように思えてなりません。高校生の立場で生意気にも恐縮ではありますが、そう強く思える程、研修会の機会は貴重なものであったと思えます。

これから大学入試に向け、もうひと踏ん張りする時期になります。僕は国家公務員という夢に向かい進んでいきます。

く思います。八正会での学びを忘れることなく、僕は八正会奨学生だと、胸を張って、自信に満ちた人間として歩んでいきたいと思っております。

三年間、本当にありがとうございました。卒業後もまた末永く、宜しくお願ひ致します。

タイトルなどない

興陽高校三年 久 富 ひかり

終わる———!!!終わってしまう———!!!

さらば、私の学生生活。卒業するのが辛いです。学生でいられなくなるのも辛いです。でも留年は嫌だあああああつて事で、やっぱり卒業します…。

今回のやまびこには、まだ学生のうちにみなさんに伝えたい事、知ってほしい事を書くかと思っていました。でも、やっぱりやめときます。書きたい事が多すぎて、「やまびこ—超特大号—」になりかねない…。真面目にいい事を書くぞー、と、思えば思うほど書けないし。まるでスランプ中の作家みたいになるし。やっぱり私は、思った事をその

まま、すらすらーっと書く方が向いているようです。その方が自分らしいしね！「作文」ではなくなりそうですが、とりあえず今思っていることをかかせて下さい。

●三年間クラス替えがなくて仲が良かったので、みんなと離れたくない。

●「社会人」になりたくない。というか、「立派な社会人」になるための教科書がないので不安すぎてこわい。

●「八正会のOB」の仲間入り。現役でなくなるのはなんだかさみしい。

●でも研修で寝坊できるのは嬉しい。

八正会って、もう私にとって一つの居場所みたいなもので、現役ではなくなるのって一大事なんです。高校と同じで、ずっといたい場所。でも高校と違うのは、行事に参加できる事。卒業しても来ていいよ！って、本当に嬉しいです…!!八正会って本当に不思議な縁えんですよね。おそらく、一生出会う事はなかった人の集まりです。私は、この縁を一生大切にしたいと思っています。後輩のみなさんも、そう思ってくれたら嬉しいですよ。

多分今までのやまびこの中で一番まとまりのない文になりましたが、ここで終わります。

かきたい事が多いと逆に書けないって本当ですね…。

終わろうと思いましたがもうちょいだけ。私は今まで生きてきた中で、後悔する、という事が人一倍多かったと思います。「あの時こうすればよかった」「本当はこうしたかった」そう考えるのは、すごく辛いです。なので今決めました。いつだって努力します。後悔しないってのは、私にはできません。でも努力の量が増えるに比例して、後悔の量も減る気がします。ん？今いいこと言った？…うん、言った（笑）よし、努力！I am努力です。こんな馬鹿なことかけるのも、きつと今のうち（笑）

最後になりましたが、八正会のみなさん、三年間本当にありがとうございました。私は私なりのやり方で、これから少しずつ恩を返させて頂きます。本当にありがとうございました。

高校生活を振り返って

関西高校三年 青山悦希

僕は陸上をするために関西高校に入学することにしました。入学する前から知っていたしきついことは分かっていた。

たけど入学してからは想像以上にきつかったです。夏、冬、春休みとあつという間に一年が終わり二年生になりました。二年生になると環境などにも慣れ、大分落ち着き余裕ができました。調子もよく中国大会も出場でき、とてもいい感じでした。

しかし、ある休日僕の携帯に同じ陸上部の部員から電話がありました。電話にでるといつもうるさく元気な奴が暗い声で話しました。

「先生が亡くなったって……」

この時、僕はまた冗談言ってると思いました。しかし、その想いとはうらはらにまさかと思う自分もいました。なのでこう聞き返しました。「嘘だろ……」

しかし、電話の相手はそっけなく「本当だよ。」

と言いました。それは本当のことであり、学校に行って全校内に放送が流れ部活に行っても先生はいない。そんなことで僕はようやく事実を受け止めだしました。葬式の時にはまだ信じる事が出来ませんでした。

それから、なんとか気持ちを立ち直らせようとなりました。今は立ち直ることは出来たけれど立ち直るまでの間はケガをしたり体調が悪くなり、長い間走ることが出来ませんでした。それでも僕は走ることが好きだし、ここで走るのをやめてしまったら先生は喜びはしないだろうしめぐまれない

いと思ったのでまた走り出しました。高校生になって体験したさまざまな経験を乗り越えて来たからこそ今の自分なのでその自分のことを大切にして生きたいと思いました。また、八正会の奨学金のおかげで、学費にかかる家計の負担を減らすことが出来、関西高校に通学することが出来ました。本当にありがとうございます。これからの進路でも頑張っていこうと思います。

追求すること

岡山城東高校三年 合 田 貴 子

灘高校伝説の国語教師、橋本武さんについての本が、偶然目にとまったので少し立ち読みをしたことがある。あの「銀の匙授業」のことだ。授業内容はこう、教科書を使わず、中学三年間をかけて中勘助の『銀の匙』を一冊読み上げる、スロリーディングをしていく。作品中の出来事や主人公の追体験に重点を置き、単にプリントを使って心情などを読み解いていくだけでなく、横道に逸れるような仕掛けが施されているものだ。例えば、文中に、凧揚げとい

う言葉が出てきたら、美術の先生に協力してもらい、実際に凧を作成し飛ばしてみる。主人公が食べたお菓子が出てきたら、作品に出てきた当時のお菓子に近いものを捜して買って、生徒と食べる。公立の学校では絶対にできない国語の授業だ。こんな先生に巡り会えた千人の生徒さんたちは奇跡的だ。

この授業で学ぶ、スロリーディング、味読するということが、何か一つのことを研究し、深く知っていくことは、自信につながっていくとあった。物事を突き詰めることが、自分の一つの強みになるのだ。私は、勉強の方面ではあまり追求することはできていない。だからセンター試験を受けるにも自信がなく、結果も良いものは得られなかった。二次試験で巻き返し、何とか合格を勝ち取りたいものだ。

追求する内容は人それぞれで、スポーツ、芸術、勉強など、これから大学や専門学校に行く人や就職する人も、さらに専門的なことを学び、深く知ることができると思う。趣味で車に詳しい人や、編み物が好きな人も、歌手のファンであることも、どこかで自分の強みにつながっていく。「追求」ということをこれからの生活でも大事にしたい。

最後になりましたが、多額の奨学金、そして、様々な体験をさせて頂いたこと、たくさんの人と出会える機会を用

意して下さい。八正会のみなさん、ありがとうございます。ありがとうございました。

現役ラスト八正会

岡山朝日高校三年 横 瀬 天 宇

いよいよ八正会を卒会する時となりました。毎月一万二千円×三年間の援助本当にありがとうございます。心より感謝しております。そして、将来絶対に恩返ししたいと思います。

最初は母に進められて、一年に四回も活動があるのを聞いて、正直行くのいやだから申し込みしたくないと思っていました。でもいざ奨学生になって夏の研修とかに参加してみると思ったよりも楽しくて、他の学校の人と情報交換したり、友達も幅も大きくなったり、毎回の研修で色々な体験をすることができました。本当にどれも有意義なものであったと今は思っています。改めてあの時八正会を申し込んでよかったと思います。

一年生の時は皆勤でしたので、皆勤賞を狙っていました

が、交換留学などで何回か参加できなかったのも残念です。

さて、今は受験真っ最中で毎日地獄のような日々です。

現役合格という言葉に対してのプレッシャーと周りの期待！私は周りの期待に答えない！けど、現実はその甘くありません。一週間ほど前に大学入試センター試験があったのはみんなご存知だと思います。今年は歴史に残るようなセンター試験だったのではないかと思います。その理由は難しさと斬新さにあると思います。多くの受験生がショックを受けたり、挫折したりしたと思います。そんな中は私は十二月末からセンター前までの学校でのセンターマラソンの結果に比べるとなんと自己ベストを叩き出しました！とは言えず、やはり大学への壁は高い！私は高いレベルの大学を目指しているのですが、判定をみるとやはり自分より上にいる人はたくさんいるとわかりました！だから二次で絶対に逆転合格したいです。そのためにも毎日コツコツの努力がやはり欠けられません。朝日高校は今年東大や京大を受ける人が毎年より多いとも言われています。そんな人たちが周りにいるのも良い刺激となっています。本番まで後一ヶ月もないですが、春に私の桜が咲くように諦めずに頑張ります！応援よろしくお願いします。

将来OGとしてまた八正会の研修などに参加することも

あると思いますので、よろしく願います。

最後に八正会に改めて感謝の意を表したいと思います。
本当にお世話になりました。

高校生活を振り返って

玉野光南高校三年 高橋 梨夏子

これが最後のやまびことになりました。思い返せば、高校生活はあっという間で、後悔はありますが、それなりに充実した三年間でした。

まず、部活動です。やまびこでも毎回のように部活について書いていましたが、私は、吹奏楽部に所属しており、部長をしていました。吹奏楽部は、女の子の人口の方が圧倒的に多く、それ故か、いつも問題の絶えない部活でした（笑）。私は、多少心配性すぎるところがあるので、部長をしていた時期は、特に、四六時中、部活のことを考えていた覚えがあります。精神的につらい時が多かったですが、毎回問題を解決する度に、この経験が自分自身を成長させ、強くしてくれていたと思います。

そして、八正会について。私は、姉が八正会にいた、ということもあり、親にすすめられて八正会に入りました。一番最初の入会式は、正直、嫌で嫌で仕方ありませんでした。私は、人見知りはいませんが、新しい場所へ行くのが異常な程苦手で、早く帰りたい一心でした。ですが、秋の研修からそれまでとは変わり、毎回の研修が楽しみで仕方がありませんでした！これは本当です！（笑）八正会には、私にとって、毎回良い刺激を与えてくれるものでした。八正会の人に会ってお話をしたり、研修をすると、「自分は、まだまだ甘い。頑張ろう。」と気持ちが湧いてくるのです。そして、気力が落ち、ふとした時に「やまびこ」を読むことで再び刺激を与えられていました。

私は、入会するために書いた作文に、英語の先生になりたい、と書きました。その後、何度も将来の夢を考えた結果、その夢は、やめたのですが、何度考えても、教育の現場に携わりたいという夢からは離れず、春からは保育系への道へ進むと思います。こうして、私が自分の夢へと進んでいるのも八正会のおかげだと思います。三年間、充実した研修や貴重な経験、また奨学金をありがとうございました。

「新しい国へ」を読んで

岡山操山高校三年 岸 広 将

今回は現首相の安倍氏の著書を読んで思ったことなどを書いていきたいと思います。昨年、総選挙が行われ自民党が政権を取り戻しました。これからのわが国の、経済・外交・国防・教育などの重要政策はどんな方向に進んでいくのだろうかと思っているとこの本に偶然出会いました。

国防について、日本の自衛隊はやっていいことが決められていて、それ以外のことは一切禁止されているそうです。それに比べて他の国の軍隊は国際法で禁止されていること以外、何をやってもいいということです。自衛隊は正統防衛でのみ武器の使用を認められ、外国の邦人の救助活動もできないという現状です。私は、アルジェリアのテロで日本の自衛隊がうまく機能するような制度があれば、救えた命があったかもしれないと思うと残念に思います。政府には、集団的自衛権などの重要案件を迅速かつ慎重に議論をおし進めてほしいと考えています。大学で国際政治を勉強する自分にとって今回の事件には関心が大きかったです。

経済については、デフレ退治と日銀改革をおし進めるそ

うです。積極財政と金融緩和と産業成長の三本柱で実現するということですが。大型の補正予算を組み、補助金や公共事業などで経済を再生させるといことです。その際に日銀が赤字国債を大規模に買い入れるということですが。まだ職を手に入れていない私にとって景気には強い関心があります。私は今回の政策はけっこう効果があると思います。しかし、楽観視はできないと思っています。国の金には限界があり借金をしすぎると財政破綻という最悪のシナリオになりかねません。ですから、私は、今後いかなる経済恐慌が起きても生きぬいていけるよう準備をおし進めていきたいと思っています。そして、自分だけでなく世界の平和にも貢献していきたいと考えています。

活動報告

玉野商業高校三年 西 麻 実

毎回ここでは、部活動の活動報告をしてきましたが、それも今回で最後になります。といっても部活は秋ごろには引退しており、とくに報告しておくことはありません。な

ので、ここでは部活動での三年間を振り返ってみようと思います。

私が所属したのは電卓部です。この電卓部は商業実務競技大会・電卓の部で全国大会に出場することを目標に活動している部活です。そこに私は一年の春に入部しました。そして一年の秋、初めて一年だけで大会にのぞみ団体四位と、全国大会には遠い結果となりました。一年だからしやうがないと周りには言われましたが、私たちは自分の力のなさを知り、それから今まで以上に練習にはげむようになりました。

二年の春リベンジにのぞんだ大会では団体三位、一歩前進したものの納得のいく結果にはなりませんでした。そして夏の合宿を終えた秋の大会、この大会では団体優勝することができ、中国大会に出場しました。また、二年の冬には別主催である高校生以外も参加できる西日本電卓大会で入賞し、ここでは全国大会に出場できました。

そして、だいぶ力のついた三年の春、最後の大会でも団体優勝し、全国大会に出場しました。この全国大会では団体・個人ともに佳良賞に入りました。やっと目標を達成したときには、自分達に自信や力がついており、後輩も入り、部活がとても楽しいものとなっていました。結局私達はその後も様々な電卓の大会に参加し、三年間で三度の全国大

会を経験しました。部活動で学んだことは多く、つらいと感じることもありましたが、今は電卓部に入ってよかったと思っています。

こうして充実した高校生活がおくれたのも八正会の支えがあったからです。三年間ありがとうございました。

三年間の軌跡

岡山朝日高校三年 易 智 也

まず初めに三年間多額の奨学金をくださった八正会に感謝の気持ちを申し上げます。三年間、本当にありがとうございました。

ここで僕の三年間の八正会での体験を書きたいと思います。理由は僕が何度か部活や体調不良で活動に出ることができていません。それをとても残念に思っているので、後輩たちに少しでも八正会での活動の楽しさを伝え、活動に出たいと思ってもらいたいです。

一つ目は夏季研修です。二泊三日の夏季研修では色々なことをします。レクリエーションでは年によって違うこと

をしますが、どれも班の絆を深めつつ、楽しめます。ディベートは班のみんながどんな人かを知りたい機会になります。発表の内容を考えるのは難しいですが完成すると何とも言えない達成感があります。キャンプファイヤーは班ごとのスタンツで班の人のいいところを知ることができます。恥ずかしくても本気でやると楽しいし、審査員の人も評価してくれます。ちなみに僕は全力でやった結果、一年生の時MVPをとりました。他にも年ごとに違った楽しいイベントが待っているのでは是非参加してください。

二つ目は秋季研修です。これは年でかなり変わります。しかし、一つだけ言えることはどの年も楽しい活動ばかりだということです。

そして、最後は普段の集会です。先生方や先輩の有難い話を聞いてこれからの参考にできます。また集会が終われば、先輩がお昼ご飯に連れて行ってくれます。折角のみんなとの交流を深める機会ですし、先輩方に感謝して有難く連れて行ってもらいましょう。

これが毎年の活動です。ここまで読んでくだされば分かると思いますが毎年毎年違った活動があります。楽しいことだけは保証します。僕の下手な文章で八正会の素晴らしき活動が伝わったとは思えませんが、少しでも後輩たちが興味を持ってくれれば、先輩として嬉しいです。こ

ここまで読んでくださりありがとうございました。

全国大会について、 そして勉強について

岡山芳泉高校二年 石井 宏佳

今回は、部活動についてだけでなく勉強のことについても書きたいと思います。これまでこの話題を避けてきましたが、どうやら行き止まりのようです。

まずは部活動についてです。もちろん今回も英語ディベートについてです。実は僕はサイエンス部にも属していて、「サイエンスチャレンジ岡山」という大会に出たという話もしたいのですが、こちらは省略させていただきます。サイエンス部のみなさんごめんなさい。それはさておき、新聞にもちょこっと載ったのでご存知の方もいるかもしれませんが、今年も全国大会に出場しました。今回は県予選があったので、去年よりは全国大会出場は難しかったのですが、その分県大会優勝時の周りの反応が良かったのを鮮明に覚えています。新聞記事には「流暢な英語でー。」など

と書いていましたが、相変わらず帰国子女率〇%の我が芳泉高校ESS部です。要するにそれはただの誇張であったということですが、そして全国大会自体についてですが、試合結果はともかくとても面白いものでした。それに上には上がいるということを強く感じた大会でした。「大会」という言葉はそれだけで少し堅苦しく感じるものですが、今回の大会においては当てはまりませんでした。開会式のあいさつでジョークが飛び出したり交歓会があったりともなごやかな雰囲気でした。上には上がいると感じたのは、前回優勝校のメンバーの一人がハーバード大学へ進学することが判明したりジャッジの方々の経歴に圧倒されたりした時です。思わず「うらやましい」と思ってしまった。この大会は本当に貴重な体験となりました。

次に勉強についてです。大会の後、何をしようかと考えた時、僕には勉強くらいしか残っていませんでした。とは言え他にもやることはあったのですが、主たるものが勉強だったという意味です。運動部についての引退試合を僕はこの全国大会だと考えていました。いままで以上に勉強してみても分かったのですが、後悔すること頻りです。「もっと早くしておけば良かった」の一点です。受験勉強でないにしても復習をすることを、後輩には強くすすめます。今も実力考査の範囲である積分についての知識を掘り起こし

ている最中だったりします。なんとか来年には志望校に合格できているよう努力します。

新たな目標

岡山芳泉高校二年 安井彩果

もうすぐしたら二年生から三年生になる。二年生の一年間は、忙しかったがその倍充実していた。それに加えて勉強の面では本当に苦労した。テストも多く、毎日、予習・復習、そしてテスト勉強というように時には逃げ出したくなる日も多々あった。しかし友人と放課後、図書館で一緒に勉強したり、先生に分かるまで聞きにいったり……。自分なりに今日まで頑張った。

そして今、この時期を先生達は「三年生の〇学期」と呼んでいる。進路に関する話しもだいたい詳しくされるようになった。面談ではテストの結果から「ここは厳しい。」などのアドバイスもされ、もっと頑張らなくてはいけないなと思っている。私は「行きたい！」と思う大学が決まっているので、勉強はやりやすい。だからこそ今年の基本公式

を完璧に覚えて問題演習に取り組んでいこうと決意している。投げ出したくなる日もあると思うが、自分の夢や目標をしっかりと心にしまつてこれから一年、最後までやろうと思う。

そして、新たにやりたいことも見つかった。まだまだ未熟な私だが、小さな目標を立てて、それを確実に一つ一つこなしていきたいなと思っっている。

今年も忙しい一年になると思うが自分なりにやっつけてく！

八正会もあと一年となつてしまった。三年間とは本当にあつという間だなと思う。残り一年、よろしくお願いします。

最近のマイブーム？（笑）

津山高校二年 齋 藤 莉華子

私の最近のマイブーム？というか趣味は、手作りで何かを作ることです。一番最近作ったのは、ハサミを使って作ったピン止めです。百均で可愛いハサミのかざり？を見つ

けた時に、コレだ！と思い、作りました。次の日学校につけていくと、友達の反応がすごく良くて…。あ、たぶん今日もつけてます（笑）

あとは、アイロンビーズでキーホルダーを作ったり、フェルトを使ったり、プラバンをしたり、短時間でできるし、ストレスも解消できて、むちゃくちゃ良いですよ！最近では、手作りのものをかばんにつけたりしていると、「また？これも作ったん？」と友達に言われるようになってきて、なんかある意味すごい人になっています（笑）でも、

これからは三年〇学期と言われたり、本格的に受験勉強に力を入れていかないといけないので、ほどほどにしたいと思います。息抜き程度に趣味もできたら充実した日々になりそうなので、勉強も頑張りつつ、コツコツとコレクションをためようと思います。（笑）私のマイブームはこれだけじゃありません。今年の文化祭でバンドをしてからベースを時々いじっています。今はあと二日後に音楽でも発表があるので、家で必死に練習中です。楽器ができる人ってかっこいいですよ。来年の文化祭でもバンドができるようにもつともつと練習しようと思つてます。ぜひぜひ津山に：！！という感じで毎日楽しくやっています。これからはストレスがたまったり大変なことが増えそうですが、適度な息抜きをしつつ目標に向かって頑張ろうと思うので、今

年もよろしく願います。

三年生〇学期とは…

明誠学院高校二年 岡本 拓人

明けましておめでとうございます。この度二〇一三年が始まりました。今年もよろしくお願い致します。

…と、簡単に遅れながら新年のごあいさつをさせていただきました。今年はいよいよ二度目の受験生となりました。ここで、題名にもなっている「三年生〇学期」について説明させていただきます。

これは、僕のクラスの担任の先生が昨年の二学期終業式時からずっと言われ続けて来られた言葉です。いわゆる、二年生三学期と思うと、一〜三月の間を何となく過ぎてしまいうから、考え方を変え、一〜三月の間を四月からの三年生になる準備期間にしません。と言う事です。

僕は今、国立の教育大学で教育学と英語の指導法について学びたいと考えています。そのために、志望している大学の特色は何なのか？教育学を学ぶ為の教育の基礎知識及

び、英語の指導法を学ぶ為に必要な基礎能力とは何か？…など、僕自身が疑問・不安に考えている事について調べることが一〜三月までの課題と思います。まだ、進級するまで少し時間があるので、今出来る事を少しずつ積み上げて行こうと思います。

最後になりましたが、この二〇一三年が皆様にとって素敵な一年、充実な一年になります事を心よりお祈り致します。今回の「やまびこ」の原稿とさせていただきます。

あと一年

岡山朝日高校二年 橋野 弘道

高校生活もあっという間に過ぎ、もう二年が経とうとしています。学校ではよく、

「二年生の三学期は、三年生の〇学期だ。」
と言われる。自分自身も、受験生としての自覚を持ち、余裕を持って三年生を迎えられるようにしたいと思います。さて、今回は三年生になるにあたって、三年生で自分が頑張ろうと思うことを書いてみました。

まず一つ目は、勉強です。先日、センター試験が行われました。一年後には自分が受けているのだと思うと、不安や焦りが出て来ます。しかし、一年後に後悔しないように、一日一日を大事にして、有意義な生活を送るようにしたいと思います。

二つ目は、「朝日祭」です。一年生は看板作り、二年生は応援合戦、三年生は仮装行列を行います。一・二年生と僕は朝日祭を見てきて、特に三年生の仮装行列は本当にすごいと感動します。今年は、自分達が三年生として仮装行列を行うこととなります。最後の朝日祭は、クラスの仲間と一緒に最高のものにしていきたいです。

また、三年生になれば、今まで以上に責任ある行動が大切になってくるでしょう。高校生活あと一年、様々な困難にぶつかることがあると思います。しかし、それを乗り越えて悔いの残らないよう、気を引き締めて、充実した日々を過ごしたいです。

そして、八正会の一員として活動できるのもあと一年となりませんが、これからも宜しくお願ひします。

最後になりましたが、お世話になった先輩方、短い間でしたが、本当にありがとうございました。一人一人、進む道は違うと思いますが、皆さんのご活躍を陰ながら願っています。

近況報告

玉野高校二年 中村樹里

まず最初に、明けましておめでとうございます。時が経つのは早いもので二年も終わりに近づいてきました。そして、遂に三年の大きな山場がこようとしています。そんな私の近況を報告させていただきます。

冬休みも、終わって、始業式から課題テストがありました。私は、二年に入ってたるんだ生活を送っていたので、新年をこす前に、反省をし、勉強をしたので、少し成績が上がりました。しかし、これで満足するのではなく、来月にあるマーク模擬試験に向けて、頑張って勉強していきたいです。

このように毎日充実した生活を送っています。

今年の目標

岡山城東高校二年 増田真帆

私の今年の目標、それは「使える人になる」ことです。使える人、というくくりは、かなり大雑把なのですが、私とはかく人の役に立つ人になりたいと思っています。何か手伝うことがあつたら自分から進んで取りかかったり、たのまれたら心良く引きうけたりなど、今まではあまりできていなかったことですが、今年が変わっていきたいです。「たのんでよかった」とか、「ありがとう」とか、言ってもらえるように頑張りたいです。

部活での目標は「自分でよく考えて行動」することです。男子バスケ部のマネージャーは、今私一人しかいません。他にもマネージャーがいたら、何をしたらいいかな、とか、どうすればいい?とか、いろいろ相談することができません。しかし一人ではそうすることができません。だから、よく考えることを大切にしたいです。顧問の先生がよく、「考える」とか、「判断する」という言葉を言います。それは、プレイヤーにだけでなく、私にも言ってくれます。その言葉を聞いたときに、よく考えよう、と考えさせられます。部

活をできるのもあと半年しかないので、この目標を達成できるように頑張りたいです。

今年受験生になるし、一年後にはもうセンター試験なので、気持ちを切り替えて、勉強にも部活にも全力で取り組んでいきたいです。

二学期をふり返って

岡山朝日高校二年 影山俊介

高校生活は早いもので、僕が高校に入学してはや二年が経とうとしています。三年生はもうすぐ大学入試本番で、それが過ぎると僕は三年生となり、受験生になります。僕も志望校を目指して勉強に奮闘するクラスの仲間から刺激を受け、少しずつ受験モードに切りかえようと気持ちを高めています。その第一歩ということで、昨年の十一月の試合を最後に部活を引退しました。

ここで僕が高校入学からの一年半、短い間ですがソフトテニスをやってきて思ったことを書きたいと思います。まず、高校の部活動の試合では、中学校の時と比べて対戦相

手をはるかに強かったことを覚えています。中学時代、県大会に出場したこともある（団体戦ですが）僕ですが、あまり練習しなかったこともあり、高校の公式戦では通算で三、四回程しか勝ってませんでした。チームメイト揃って一回戦で全滅、という時もありました。次に、他校のチーム（特に工業、商業高校系）を見ると、あり得ないくらい選手層が厚いのです。試合に出られない人の方が出られる人よりも圧倒的に多く、八人入りのベンチ入りメンバーに向かつて三十人以上がベンチの外からひたすら応援するような学校もありました。普通科高校に通っている人を除いて、僕の中学校のテニス仲間がベンチに入っているところを僕はまだ一度も見えていません（笑）上には上がいるのだと感じました。

大学入試においても同じことが言えると思います。レベルの高い大学になればなるほど、ツワモノ揃いの中で高い倍率を突破しなければなりません。それを想像すると、僕は恐くてたまりません。最後に、僕がナルホドと思った先生の名言を紹介させていただきます。

「スポーツ選手になりたいなら部活をするのは当たり前、大学に受かりたいなら勉強するのが当たり前」

みなさんの中には、二年生で引退するのは早いのではないかと思う人もいるかもしれませんが、しかし自分が今すべ

きことを優先して考えると、おのずと方向性は決まりました。テニスは大学に入ってからもう一度頑張ろうと思います。

おばあさんに感謝

岡山操山高校二年 佐伯 映美鈴

毎朝、寒い中一人のおばあさんが学校の近くにすわっています。朝七時三十分頃、私はそのおばあさんにあいさつをするのですが、カゴを椅子にしてひざ掛けをかけてすわっている様子は、こじんまりとした人形のようにとても可愛いらしいです。おばあさんは、ただすわっているだけ……ではなく、私たちの安全を見守ってくれているのです。私自身もこれまでを振り返ってみると、たくさんの地域のおじいさん、おばあさんに見守ってきてもらってきました。小学生の頃は、通学路にある国道沿いの横断歩道に、毎日下校時になると、立ってくれるおじいさんがいました。おじいさんはとても気さくな方で、私はおじいさんと家が近かったということもあり、みんなで一緒に帰ったりする

こともありました。そのおじいさんはボランティアで毎日私たちを見守ってくれているそうです。

青色パトロールカーもその例だと思います。私の住んでいる地域では特に、そういった取り組みに対する意識が高いのだそうです。

ふと私は、自分も地域に何かできることはないか、と考えました。とは言っても、家にいる時間がとても短い私に、大きな行動を起こすことは実際できません。そこで、地域の人に会ったら積極的にあいさつをしようと考えました。

あの毎朝学校の近くにすわっているおばあさんに、今まで以上に気持ちのよいあいさつをすることを心がけようと思います。そして、自分がおばあさんになったら、同じように地域の子どもの安全を見守っていききたいと思います。私は子どもが好きで、将来もそれを活かした仕事がしたい、と思っているので、定年退職したあとも、子どもたちと関わることは続けていきたいです。

明日もおばあさんに会ったら、気持ちのよいあいさつをしようと思います！

部活動の思い出

倉敷青陵高校二年 後 藤 眞 依

明けましておめでとうございます。今年も「やまびこ」に寄稿させていただくことを大変嬉しく思います。

さて、昨年十一月、科学部での最大のイベントである「サイエンスチャレンジ岡山二〇一二」が開催され、参加しました。前回と比べ、種目が三つに減ってしまいました。が、「うどんタワー」(前回出場)は健在、今回こそは高さも強度も十分なタワーを作ろう!とリベンジすることになりました。此度多くの後輩もできたためその分アイデアも飛び交い、放課後毎日科学室に集まったためその分アイデアも戻りました。気付けば夢中になりすぎて皆手が接着剤でカピカピになっていた日もありました。そしてむかえた当日。前日のリハーサルで制限時間をオーバーしてしまい、少し不安な気持ちでしたが、「大丈夫、いつも通りやろう」とメンバーで互いに声を掛け合い、手の震えと悪戦苦闘しながらなんとか完成することができました。結果は総合三位。初めて筆記競技にも参加し、チームワークの大切さを改めて実感した日となりました。科学部での大きな

活動はこれが最後です。兼部をしている棋道部での活動は残すところ五月の試合となりました。よい締めくくりができるよう取り組みたいと思います。

三年〇学期をむかえた今、私の心には進路に対する不安や悩みがたくさんあります。しかし、日々学校でそれぞれの進路にむかって励む先輩方の姿を見たり、八正会の先輩方の話を聞く中で、最後まで諦めない信念を持ち続けることが、自分の原動力になるのだということ強く感じました。これから精神的にも肉体的にもハードな一年になりますが、ヘビー（巳）な収穫ができるよう限られた時間を大切に過ごしていきたいと思います。

最後になりましたが、毎月多額の奨学金を本当にありがとうございます。

県大会

倉敷古城池高校二年 吉川 江美

私はバスケットボール部に所属しています。先日、新チームになって初めての県大会に出場しました。

六月に先輩が引退し、新チームのキャプテンとしてチームを引っ張っています。最初の頃はチームプレーもおろそか、個人プレーも未熟でしたが、夏の暑い中、毎日練習に励み、お互いに切磋琢磨しあって努力してきた結果、秋の地区大会を勝ち抜き、県大会出場への切符を手に入れました。

県大会当日、私は地区大会とは違う緊張が襲ってきました。「どうして大事な試合でこんなに緊張するのだろうか。」となぜか無性に自分に腹が立ちました。緊張したら体が硬直し、シュートも入らなくなり、メリットがないと分かるのに：その時、顧問の先生に、「全力でやってこい。失敗しても気にせず、練習してきたことをやればいい。」と言われた時、私は肩の荷がおりました。そして試合開始のホイッスル。前半はリードされていたが、みんなあきらめず、最後まで全力でやりきり、一回戦を突破することができました。二回戦目は県内で二位のチームとあたり、完敗しました。相手のチームは今まで味わったことがないくらいにスピードがはやく、自分達のプレーができなかったことが悔しかったです。けれども、この試合はとても自分にとっても、チームにとっても良い経験になりました。

春には高校生活で最後の県大会出場チームを決める大会があります。「一月行く、二月逃げる、三月去る」と言う

ように、月日はあつという間に経ってしまいます。だから、悔いのないようにキャプテンとして時には厳しく、時には優しくチームをまとめ、県大会出場を目標に日々精進して頑張っていきたいです。

一年を振り返って

倉敷青陵高校二年 藤 堂 政 行

高校に入学して二年が経ち、気がつけば高校生活も残り一年になりました。特に去年はあつという間に通り過ぎてしまったという感じがします。ここで去年を振り返ってみたいと思います。

まず、二年生最大のイベントでもある修学旅行。私は北海道に行ったのですが飛行機に乗るのが初めてだったので無事に着くか不安で、しかも気分も悪くなり生きた心地がしませんでした。しかし、着いてからは海鮮丼を食べたり、旭川動物園に行ったり、ラフティング体験をしたり本当に楽しくて思い出に残る四日間でした。九月には青陵祭がありました。三日間とても盛り上がり、クラスの団結力も高

まったような気がします。八正会では一年生の時には参加出来なかつたのですが、去年は初めて夏期研修に参加させて頂き、非常に貴重な体験をさせてもらうことが出来ました。こんな感じで去年はとても充実した年でした。

ところで、最近学校では三年生の先輩方の雰囲気の違い、私も今年受験生になるんだなあと強く感じさせられます。後一年で受験なんだと焦ったり不安になったりすることもあります。考えてみると今まで私は自分に甘かったような気がします。今日は、疲れているからとか面倒臭いなどという理由で色々な事から逃げていました。このままだと自分にも受験にも負けてしまつて何も得られなかつたということになりかねません。そうなつて後悔しないためにも心を変えて努力していきたいです。そして一日一日を大切に高校生活を過ごしていきたいです。

最後に、今こうして楽しく学校生活を送れるのも八正会のおかげです。どうかこれからもよろしくお願いします。

課題に翻弄されぬ為に

岡山操山高校二年 山本 成

高校二年生になると課題の量が増えたり、内容が難しくなったりして毎週課題提出に脅かされています。小、中学生の課題は問題もそんなに難しくなく、量も少なかつたです。一般的に週末は平日の疲労を癒してくれる日なのですが、高校生の場合土曜日は部活や授業、模試があり、日曜日は明日の予習や課題をしなければならぬので、休日というものは存在しません。高校生である以上、大学入試に向けて毎週課題を熟すことは当然ですが、流石に休みのない毎日が続いていると、途中で課題を投げ出したくなる時があります。課題を放置して享楽に耽ると、その結果課題に追い詰められてしまい、夜遅くまで起きなければならぬのです。その内提出期限を無視して数日経ってから提出するようになります。このように、夜中まで課題をこなすのは体調に悪影響だったり提出期限を遅らせるとその次の課題に手をつけられずになつたりするので、たった一回課題を投げ出すことで課題を出せなくなってしまうのです。また、課題をするとき、眠気が襲ってきます。眠気に意を

任せると完全に飲み込まれ、結局何もできなかったまま提出日を迎えてしまいます。僕は課題の天敵である享楽と眠気に負けて、一時期課題を疎かにしたときが約二カ月前にありました。

僕が已むを得ず諦めたのは数学の課題です。これは冊子に載っている例題や練習問題が印刷された紙をノートに貼って解く課題ですが、問題の量が多かつたり、毎日授業を真剣に取り組んでも理解できないような難問があつたりして、課題に対する気力が衰微します。それでも提出期限が逼迫しているときは、問題の理解に関係なくひたすら模範解答を写しても提出します。しかし、その頃は学校の文化祭の準備があつたり、文化祭が終わると部活の遠征があつたりして、思い通りに課題をする時間を得ることができませんでした。課題提出の前日、殆どの課題を済ましたなか、数学の課題だけが残っていました。その時、「今まで数学の課題を期限内に提出してきたが、できない問題を理解もせずただノートに解答を写して提出するのは無意味なのではないのか。そんな課題を続けている自分は何がしたいのか。」と諦めを感じて、初めて課題を提出期限に出しませんでした。そのまま数学の課題を二週分滞納して先生に課題の提出を促されました。僕の同級生のなかにはそれ以上に課題を溜めている生徒も多かつたので、課題に翻

弄されている生徒の気持ちを取り、毎回期限通りに課題を提出している生徒を改めて立派だと感じました。

毎日コツコツすれば何も悩むことはないと感じているけれど、結局自分の甘さに痛感するのです。忙しいのは皆同じ、その中で課題を熟し、部活動をし時々余暇を楽しむ。それができないと志望校は目指せないと改めて思いました。大学入試まで約一年後となった今、課題に追われる毎日にならないよう、自分の生活態度を見直して充実した日々を送ることができるよう頑張っていきます。

「音読」 ～英語上達の一番の近道～

岡山芳泉高校二年 宮田 吉朗

みなさん「音読」の効果を知っていますか。そして音読はしていますか。今回は「音読」という学習方法の効果も英語の学習と合わせて書こうと思います。友達を見ていても英語や他の科目を勉強する時、黙々と書いている人がほとんどです。実はこの方法では英語は全く出来るようになりません。中には音読なんか大したことないと思ってる人

もいると思います。でも思い出してください。小さい時、

「じゅげむ」や早口言葉をどうやって覚えられたか。そう「音読」です。まさか黙々と書いて覚えたという人はいないと思います。歌詞を覚える時もふつうの人は歌って（音読して）覚えると思います。これが音読の効果です。音読をすることによって音が動作記憶として頭に残り口をついて出てきます。音読の効果は他にも書ききれないほどたくさんあるけれどとにかく皆が思っている以上ウルトラ・ハイパー級に効果があるということを覚えておいてください。

次は音読をつかった英語の勉強方法を紹介します。とにかく文法書の例文を徹底的に音読すること。一例文十回がベスト。そして徹底反復（これが大切！）。例文を音読することによって文法問題・英作文などで解答が瞬間的に浮かぶということがあります。とにかく音読は一石何鳥にもなります。そして、音読が一番威力を発揮するのは、長文です。英語は実は予習に時間をかけるより復習に時間をかけた方がよいというのが最近言われていて復習する時、とにかくCDと合わせて長文を音読することです。一日でトータル三十分くらい。これを毎日続けると、一ヶ月後、自分に異変が訪れたことに気づきます。時間をかければかけるほど、大きな声を出せば出すほど続けられ続けるほど効果は絶大です。とにかく読んで理解するスピードがとん

でもなく上がります。

しかし音読する際注意することは、意識をすること。声に出しつつ意味をとらえること。そして大きな声を出すこと。これらをしていないと音読しても効果はありません。さらに最も大切なことは続けること、一日三十分もできない人は十分を三回に分けるなど工夫をしてください。本当は三十分でも少ないくらいですがとにかく続けることが大切です。続けない人に結果は出ません。必ず毎日しててください。そうすれば結果は出ます。とにかく英語をするときは常に口を動かすことが大切です。

本当は他にもまだまだ書きたいこと（単読・リスニング）などありますが、これも音読でクリアできます。エラそうに書きましたが全然できなかった僕が音読のおかげで今は英語が大好きに。合い言葉は「一読入魂」とにかく一回の音読に全力を尽くすこと。

最後に、英語を得意にする秘訣は………

「音読・音読・音読・音読×一〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

!!!!!!!!」

ふと振り返ってみると

岡山城東高校二年 藤原亮 輔

「三年〇学期だ」と二年の今の時期のことを学校の先生方はこう表現します。三年生になるための、受験に向けて勉強をする準備の期間だという意味だそうです。それを聞かされて僕は、もうすぐ三年生になるのか、あと一年と少しで高校生活も終わってしまうのか、と少し驚くような気持ちになりました。はやいなあと感じ、また、いろんなことがあつたなあとも感じました。

高校に入ってからずっと抱負してみたものがあって、それは「チャレンジすることを恐れない」という事を大事にしてきました。少しありきたりな気もしますが、この言葉のおかげで充実した高校生活が送れているのではないかと思います。高校生になって部活に入ってから始めたダンスや、趣味で最近始めたギターや、パソコンを使つての作曲などもこの言葉が背中を押してくれたのではないのかと思います。中学の頃までであればきつと「自分には向いてないだろうから」といった言葉で自分に言い訳をして、結局やらずに諦めてしまったのではないかと思います。

ただ、多くのことに挑戦してきた反面、おろそかになってしまったり、中途半端なままになってしまっていることも多くあります。高校を卒業するときに、このように高校生活を振り返って、「いい高校生活だったなあ」といえるように、遣り残したことがあって後悔が残らないように、残りの一年と少しの高校生活を送っていききたいと思います。

今まで、そしてこれから

創志学園高校一年 小 林 桂 子

高校に入学して、もう一年が経とうとしています。九ヶ月間の間には、いろいろなことがありました。

四月、看護師という同じ夢を持った仲間との出会い。この出来事が私を大きく変えたような気がします。中学校までの私は、何事にも消極的でしたが、高校生になってバイトをしてみたり、英検や日本語検定に挑戦するなど自分から行動を起こすようになりました。

学習面は、自分なりに工夫して勉強しています。が、看護の専門的な科目はやはり難しいということを実感した九

ヶ月でもありました。二月には模試があるので、それに向けて頑張りたいと思います。クラスのみんなの姿を見ると、私も負けていられないと勉強にも身が入ります。

私のクラスは普段からにぎやかで明るいクラス（正直、うるさいくらい喋りまくります）なのですが、行事になるとさらに団結力が増します。学校行事は、四月入学直前閉谷研修、五月球技大会、十月体育祭、遠足などたくさんありました。一番思い出深いのは文化祭です。文化祭に向けて最初にとりかかったのは模擬店を宣伝するための垂れ幕作りです。大人数で長い時間かけて作ったかきがあり、垂れ幕部門で優勝できました。皆さんに見せられないのがとても残念です。そして、文化祭当日!! 私たちは、クラスみんなでデザインしたお揃いのTシャツを着て、ポテトとからあげとチョコバナナを売りました。途中で材料が無くなってしまったり、行列を作ってしまうなどの予想していなかったハプニングがありました。が、無事赤字になることなく売り切ることができたので良かったです。

私は、ステージ発表にも参加しました。舞台裏にいるときが一番緊張していました。でも、いざステージに立つとテンションも上がって私自身とても楽しい時間を過ごすことができました。来年は先輩方のように会場をひとつにできるパフォーマンスをしたいと思います。

最後に、一年生でいられるのもあと数ヶ月です。二年生になると病院実習もあります。生活面から切り換えて、自分に厳しくしていきたいと思います。

補習だらけの一年間

倉敷工業高校一年 清水 晃 希

高校に入学して早くも一年間がたとうとしています。一年というのは、とても早くふり返ってみると高校生活は資格取得のための補習ばかりでした。しかしその補習の成果が実り第二種電気工事士・第一種電気工事士という二つの資格に合格することができました。この二つの資格をとるための補習はとて大変でした。まず、第二種電気工事士の補習では高校に入学した次の日からいきなり約三〇〇個の電気機器の名前と使い方を覚えるというものでした。まだ高校に入学したばかりで見ただけでもない電気機器を三〇〇個も覚えるのはとても大変でした。三〇〇個ががんばって覚えても本番の試験では五〇問中の五問が答えられるようになっただけで、合格するためには三〇問正解する必要

があったので他にも覚えることが本当にたくさんありました。こんな補習が毎日続き、遅い時には八時や九時まで残って勉強したこともありました。しかしこれはまだ筆記試験の補習で筆記試験がおわれば、次は技能試験がありました。この技能試験に僕は本当に苦められました。手先が不器用な僕は一つの作品を作るこの技能試験で落ちるかと思いました。平日の補習だけでなく、土・日も学校に行って補習をうけました。このような補習のおかげで第二種電気工事士に合格することができました。しかし、この試験の十日後には第一種電気工事士の補習が始まりました。筆記試験の補習では第二種よりも難しくなり、技能試験の補習では作業の量が増えて家に帰る時間が遅くなったりしてさらに忙しくなりました。第一種の本番の試験では技能試験のときに少しミスをしてしまったので合格発表の時はとても緊張しましたが、合格した時は本当にうれしかったです。合格できたのは夜遅くまで補習をしてくれた先生たちのおかげで感謝の気持ちでいっぱいです。この感謝の気持ちを忘れずにこれからの高校生活をもっと充実させていこうと思います。

初!!のスポーツ選手の自伝を読んで

倉敷天城高校一年 小 西 茜

二〇一三年、明けましておめでとうございます。昨年はお世話になりました。奨学金を出してくださるトンボ会社の方々、八正会のみなさん、今年もよろしくお願いいたします！

さて、今回の作文はこれといった近況報告もなかったのですが、ある本について書きます。

私は普段からスポーツ観戦などしませんが、最近、人生初!!スポーツ選手の自伝本を読みました。長友佑都選手の「上昇思考」という本です。ここで私が感動した思考法を紹介したいと思います。

- たとえ上手くいかない事があるような時でもできるだけ心を穏やかにして、いつも通り人と接する。
- 人を好きになればその人の言うことがすうっと心の中に入っていく、よく理解できるようになる。
- 限界などは自分で考えているよりもはるか先にある。
- 常にベストコンディションでいるのが理想なのはもちろんだ。たとえそうではなくなっても、それを口には

出さないようにする。ダメだと口にすれば心はますますまいっていった、それに伴い身体も動かなくなっていく。私の一番お気に入りには一番最後です。長友選手はどんなにコンディションが悪い時でも常に「今日もベストコンディションだ」と言うし、プレーの悪さをコンディションのせいにしていくようではプロにはなれないと書いていました。この言葉は私にとって大きな衝撃でした。思い返すと、私はテストの点数が悪い時は部活のせい、環境のせい、部活の試合で負けた時は相手のせい、体調のせい。

この言葉を読んだ時、周りを言い訳に使っている自分が本当に恥ずかしくなりました。そして、それから勉強や部活で周りのせいにしないよう頑張るうちに分かったことがあります。

それは常にベストコンディションだと思ふ事はだんだん常にそうなるように努力するようになる、ということですね。私はまだ毎回は長友選手のように考えませんがこれから「私はベストコンディションだよ！」と言えるように努力していこうと思います。

私にとって人生初のスポーツ選手の本でしたが大きな事を教わりました。スポーツをしない人でもこの本は心を広くしてくれるのでお勧めです。機会があったら読んでみてください。

最近、感動したこと

山陽女子高校一年 影 山 姫 花

つい最近、祖母と母、妹、私でレ・ミゼラブルという映画を見た。フランス革命の中での人々の生活を描いた映画で、私もこの時代に生まれていたら……とか、もし私がその人の立場だったらどうしただろう……。とかいんなことを考えさせられ、とても感動した。

この作品で良かったところは、主人公のジャン・バルジャンがパン一切れを盗んだ罪で十九年間も投獄された後、仮釈放されたがバルジャンは仕事をしても他人の半分しか給料をもらえない、宿泊を断られるなど世間の冷たい風さらされます。泊まる場所を探していたところ、親切な司教様が泊まることを提供してくれた。しかし、バルジャンは司教様の善意を裏切り、銀の燭台を盗み逃げ出した。ところが、すぐに警察に捕まった。しかし、司教様は「それは彼にさし上げたものだ。」とバルジャンをかばったことによりバルジャンは心を打たれ、まっすぐ、正しい道に歩んでいき、生まれ変わると決意し、たくさんの人に親しまれる人に変身したところだ。

私も周りの人に支えられている、自分には味方がいるというのを忘れず何事も感謝の気持ちを忘れず日々生活していきたいと思った。

私は今までも、これからも家族や友達、これから知り合っていく人などにも支えてもらわないと生きてゆけない。その支えてもらっている人達に自分も恩返しをしないとけない。

恩返しはやるだけでは意味がない。心をこめて、感謝の気持ちこめてしないといけない。そのために自分の心をきれいにしていきたい。

このようにこの映画でいろんなことを考えさせられた。みなさんにも見てもらいたいと思います。

Tackle things with thorough
thinking

岡山城東高校一年 難 波 千 里

「Tackle things with thorough thinking」省略して「T²+」とも言われます。これは、私たち城東生二十六期

生に与えられた教訓のようなものだ。

「tackle」とは取り組み。「things」とはすべき事。「thorough」とは徹底的な。「thinking」とは考えること。よって「Tackle things with thorough thinking」とは「自分のすべき事に取り組み、徹底的に考えて行動する」という意味合いになる。

私たちに与えられたこの教訓。これは城東ならではの言葉だと思った。「自由」と隣り合わせにある「責任」。あなたたちは、自由の中で自分自身で深く思考し、責任を持って行動しなさい。「自由」と聞けば、気ままにすることや、好きなように行動することという意味があるが、城東の「自由」とは、深い意味のある「自由」なのだ。

あらゆる式の始めに、いつも校長先生がおっしゃられる言葉。

「ステージは世界だ。世界は今、グローバル化だ。一人一人の個性、得意なことを伸ばしてほし。そして将来日本、世界のリーダーとなる人材を増やしていくべく、視野を広く持つてほしい。」

入学式でこれを聞いた時、「難しいことを言われるなあ。城東高校でやっていけるかなあ。」不安や心配ばかり抱えていた。しかし、今は違う。「よし、もっと勉強しよう。まずは、勉強時間を増やさないと。」など、勉強に対する

前向きな意志が自然とわいてきて、やる気みなぎってくる。どうしてこうも、変わってきたのだろう。

今はもう、城東高校一年生が終わりに向かおうとしている。城東で色々な先生、先輩、友達に出会った。みんな個性を持ち、心にはなにか光っているものがある。そして、一緒に過ごしていく中で、心の中の光が目に見えるものになってきた。私はその光たちを浴び、その光たちは、私に何らかの刺激をくれる。その人との距離が近くなればなるほど、多くの刺激をもらえる。私の気付かないうちに、この光たちは私を変えてくれたのだと思った。私は誰よりも明るい光を放っているような人になりたい。そして、自分を強くし、日本、世界のリーダーに少しでも近づけるように努力していきたい。

「Tackle things with thorough thinking」自分が目指すもの、自分の目標をしっかりと持ち、責任感を持って生きていきたい。

城東高校で過ごせる時間がどんどん少なくなってきた。気付けば、もうあとという間に一年生が終わる。残りの城東での生活を、毎日輝かしいものにし、最高の城東Lifeを送っていきたい。

最近のこと

岡山城東高校一年 小林 遥

高校に入学した頃は、一年生三学期というものが全く想像が付きませんでした。今その三分の一がもうすぐ終わろうとしています。さて、今回の作文は、この冒頭とは全く関係ない話題でいきます。

突然ですが、私はプリクラというものが非常に苦手です。写真を撮るのに四百円も出せない、思い出作りとかいうけど作りすぎだろ、キメ顔って何だよ!!など、いろいろ理由はありますが、今回は何故このプリクラがあんなに人気があるのか、ということについて考えてみようと思います。

理由の一つ目として、女の子は基本的に可愛い人に憧れる、ということがあげられると思います。その憧れに近づきたい!と思うのは当然のことでしょうが、なかなか簡単なものではありません。しかしプリクラならどうでしょう。最近のプリクラは、美白効果や映りの雰囲気を選べるのは勿論、美脚に見せてくれたり、瞳の大きさを変えたり、(これはここ最近一番の衝撃でした)輪郭を修正して小顔にしてくれたります。これだけあれば、可愛くなるハ-

ドルも随分と下がるというものです。あまりに可愛くなりすぎて別人になるという嬉しい(?)問題もしばしばですが。このように考えると、四百円というのは決して高くないのかもしれませんが。

二つ目は、最初に思い出作りというワードをあげましたが、女の子は、男の子と比較しても、思い出の証拠品を残すことが好きである、ということ。仲の良い友達とそろいの物を持った経験のある人は多いのではないのでしょうか。これもその女の子の「特性」の一つだと思います。

最近驚いた光景として、クラスの友達とバイキングに行き、バイキングの前に二〜三回プリクラを撮ったのにバイキングの時も何枚も携帯で写真を撮っている、というものがありません。不思議な気持ちになりました。プリクラは落書き機能なんかも充実しているので、写真とはまた違うのですが、そうだとでも腑に落ちません。何はともあれ、女の子は写真が好きなのです。だからプリクラも好きなのです。

強引に締めくくってしまいましたが、女の子がプリクラを好きな理由、自分の中ではほんやりと分かってきたような気がします。妙な作文で申し訳ありません。

最後になりましたが、毎月の奨学金、本当に感謝しております。ありがとうございます。

二〇一三年の決意表明

岡山芳泉高校一年 小野 雅史

高校生になって、もう一年間が過ぎようとしています。

一年前、高校受験で様々なことと悪戦苦闘していた自分を思い出すと懐かしく感じますが、高校生になってからの一年間は本当にあつという間でした。そして、この一年間は僕にとって最も変化の大きな一年間でした。

まず、勉強について言うと、高校の授業は一度や二度の説明で理解できるものではありません。さらに僕の高校では「宿題の芳泉」とも言われることがある(らしい)ように、毎週、毎日のように課題がたくさん出されます。入学当初はやる気や緊張感が持っていてなんとか提出しようとして毎日頑張っていたのですが、最近では寝てしまったり、後回しにしてしまったりで、テストの結果も惨々です。二年生に進級するにあたり、この初心を持ち続け、日々努力を積み重ねていきたいです。

次に、この一年間を振り返って感じたのはたくさんの人たちと出会えたということです。高校でのクラスメイトや部活動の仲間たち、そして八正会で出会った全ての人、そ

のどの出会いも僕にとっては新しく、大切なものになりました。これらの出会いを通して、僕は少しずつですが、成長できたように思います。そして今年も部活動でも八正会でも初めての後輩ができる年です。僕も様々な先輩方が優しく接してくださったように、今度は自分が後輩たちを温かく迎えられるような先輩になりたいです。

最後に二〇一三年最大の目標を掲げます。「日一杯楽しむ」ということです。ある先生が「高校三年生は、高校生〴〵じゃなく、受験生〴〵だから、二年生の一年間で思い切り楽しいことや、やりたいことをやっておきなさい。」と言っていました。

けじめをつけ勉強にも取り組みながら、今までできなかったいろいろな体験に挑戦する、そんな充実した一年にしたい、いや、します。

今年の抱負と私の未来

就実高校一年 萩原 萌

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよ

ろしくお願ひします。もう、二月も近いですが……。昨年はあまり、行事に参加できなくて大変申し訳ありませんでした。

それはさておき、昨年は色々と初体験が多い一年でしたが、今年も何か新しいことに取り組んでいこうと思います。例えば、私の学校ではボランティアの「ナック」と呼ばれる部活があります。高校生活に慣れ始めてきたのでその部活でもっと自分の周りのことについて、知ろうと考えています。また、ボランティアでどんなふうに関わっているのかも自分の人生の糧にしていけるだろうと思います。

そして、勉強です。最近、私の友達は勉強をすることを「仕事」と言います。その子は本当に楽しそうに勉強をします。自分のすべきことが分かっている人というのはとてもすごいと思います。私は今、漠然と勉強をしています。そして、テストが終わるたびに「終わって行くような感じがするのです。多分、時間もあるかもしれませんが、真剣にこれしかない、これがしたいと思う時間があります。それが時々ひどくつらいです。

最近、ニュースで取り上げられている教員に暴力を受けたバスケット部の男子が自殺した事件を聞いて私は「なんで、逃げなかったんだらう。」と言うと、母は「その子にはそれしかなかったんだよ。」と言いました。その言葉は突然

私の頭の上から雷を落としました。亡くなられた人にこんなことを言うのは失礼かもしれませんが、これまで生きてきた中で熱中するものがあまりない日々を送っている私にとって命を懸けるほどのものがあるのは本当に羨ましいと思います。だから、私の未来は漠然とではないものにしていこうと思いました。(でも、ここで書いたら叶わなくなりそうなので伏せておきます)そして、その目標のためにこれからはより一層勉強に励んでいきたいと強く感じています。

最後に、今年は八正会での行事で皆勤賞をとることも目標です！これからも、たくさんの人との出会いを楽しみにしています。

スキーが好きになりました

倉敷古城池高校一年 片山 遥

一月二十五日金曜日に学校での授業を終え、バスに乗りこみました。待ちに待った二泊三日のスキー合宿の始まりです。学校から兵庫神鍋スキー場までは三時間半の長丁場。

しかし、私は楽しみでたまりませんでした。目的地に近づくにつれて白い雪が多く見えるようになりました。スキー場に着くころには、吹雪で外は視界が悪く何も見えませんでした。

ホテルに着くと、まず夕食を食べて、それからウェア合わせ。ようやくスキーをするんだなあという実感が湧いてきました。その日は疲れていたのですぐ眠れました。

二日目、スキーの講習でインストラクターさんに教えていただきました。生まれて初めてのスキー、期待いっぱいでしたが信じられないことが起きてしまいました。担当のインストラクターさんは自己中心的で、思いっきり初心者の私たちをリフトにのせ…そしてゲレンデを滑らせられ、もちろん滑れることはできず、新雪で埋まり（キヤー）、私と友達はスキー板を外して歩くはめになり（涙）。雪のなかでこんなに汗をかくとは…本当に疲れしました。

その後、一時間のフリー滑走がありました。リフトに乗ってすべる元気はなく、ファミリースキー場で滑りました。

そしてホテルに帰り夕食を食べ、「コウノトリについて」の講演会で生聴等について聞きました。あまりの疲労感に襲われ…眠気と戦いながら聞きました。見渡すと、私の周りには眠気に負けた人がいっぱいいました。せっかく開いてくれた講演会、できればスキーをする前にあつたら

よかったのに…コウノトリさん、ごめんなさい。

最終日の三日目は午前中全てがフリー滑走でした。そのころになるとやっと滑ることが出来るようになったので、昨日のリベンジで、友達に「リフトに乗って滑ろう！」と言うと全力で否定されてしまいました。けれども、私はどうしてもこのまま終わりがたくなかったので、別の友達を見つけて一緒にリフトに乗り、滑りに行きました。その友達はずごく上手で手取り足取り教えてくれたので、なんとなくゲレンデで滑れるようになりました。リベンジ成功です。「やればできる」です。

やっと滑れるようになったのに、帰る時間がきてしまいました。楽しい時間もつかの間で…

バスに乗り、「楽しかったね」と友達と話をしていると、なぜかマスクが配布され…どうやら、インフルエンザが流行ってしまったらしく。私は、合宿中は楽しく過ごして縁がなかったのだが、何かいやな予感がしてしまった。楽しい思い出とともにインフルエンザまでいただいて帰ってしまいました。けれども、スキーにまた行きたいです。スキー最高！

振り返り

岡山朝日高校一年 日 名 絵里華

今回、私は作文を書くにあたって最近の事について振り返りました。そのとき気付いたことは、「最近何一つ充実していない」ということです。またともに勉強していないので成績は下がるばかり、部活もたまにサボるようになり、かといって友達と遊びまくっているわけでもなく。そこで私は原因を探ることにしました。

主な原因は「携帯」です。勉強中もついつい携帯に手がのびてしまい、集中が切れてしまいます。予習などもネットに頼るようになったし、勉強するとき以外にも携帯をいじってばかりです。だから、私は携帯を使うのは最低限にすることにしました。パナソニックの松下幸之助さんの言葉に、『初心を忘れず』『志を換えないで、志を貫く』志を立て決意することは大事、だが、それ以上に大事なものは、その初心を持ち続けることである。成功とは、成功するまで続けること、成功するというのは、たいていの場合、途中でやめてしまうからだ。』というのがあります。その言葉を忘れずに今後、勉強・部活・遊びの三つを両立してい

きたいです。

部活動

岡山工業高校一年 小 野 龍 司

僕は、中学校のときバスケットボール部で、もっとバスケットボールがしたくてバスケットボールが強い岡山工業に入学して、バスケットボール部に入部しました。練習は毎日とてもきついけど、充実した日々を送っています。だけど、八正会の研修にはいつも試合がかぶっていて、一度も参加することができませんでした。だから、次の研修には、参加できたらうれしいです。

部活動は、三年生が引退してから新しいチームになり、僕も試合にでる機会が多くなり、地区大会、県大会で優勝することができました。次は二月の八・九・十日にある中国大会に向けて頑張っています。インフルエンザの流行などで部の状態はあまり良くないけど、中国大会でも結果が残せるように頑張っています。

それに部の顧問が言った「どんな良い結果がでてでも謙虚

にいつも通りにして、自分に關っている全ての人に感謝して生活しろ。」という言葉を理解して生活できるようにしていきたいです。

まず始めに：

岡山朝日高校一年 久 富 聖 也

前回のやまびこの原稿で僕は、内容の配分を間違え、「まず始めに」の次が無い状態で原稿が終結してしまっていたので、その「次」をこの原稿に書くことと予告していました。しかし、その「次」に代われるような、僕にとって重大なことがあるので、誠に勝手ながら、今回はそれに重点を置いて書きたいと思います。

まず始めに、僕は一月二十七日の歓送会の日、鳥取県の大山にいました。学校のスキー教室と日程が重なってしまいました。僕は夏の研修会以降、八正会の集いには全く参加できていなかったもので、歓送会には出席しなかったのですが、とても残念に思います。しかし、大山では僕が普通に生活しているときには決して体験できないような雪山体

験をすることができました。一日目は吹雪の中で講習を受け、二日目は快晴の空の下で自由に滑降するという両極端なコンディションを体験することができ、宿舎で友人と楽しく過ごすこともできたので、とても有意義な二日間だったと思います。

そして次に、僕は今年の三月十日から二十二日まで、イギリスに滞在（ホームステイ）し、「スペシャリストサイエンスカレッジ」認定校で学べることになりました。これは学校が定員二十名（最終的に二十一名参加になりました）で生徒を募集した希望制の学校行事に参加することになります。イギリスには僕が昔から行きたいと思っていた場所がたくさんあり、また、英語の故郷で英語を使用して会話等ができるので、とても楽しみに思っています。同時にこのような経験ができることへの感謝の気持ちも忘れてはいけな思っています。感謝の気持ちといえば、歓送会で伝えられなかったもので、この場を借ります。三年生の皆さん、一年間ありがとうございました。これからもお元気でまた宜しく願います。

「歓送会」

倉敷古城池高校一年 井上法子

雪がチラチラと舞い、寒い日々が続いています。早いもので、八正会の研修も今年度最後になりました。残念ながら、私は学校の行事で参加することが出来ませんでした。先輩の方々に直接お礼や卒業のお祝いの言葉を伝えることができず、申し訳ありませんでした。この原稿をお借りして気持ちを伝えることができました。

緊張の中で迎えた四月の入学式では、先輩方が場慣れた様子で堂々と自己紹介をされる姿を見て、圧倒されるのと同時に二年後にはあの席にいるのだと思うと、背筋がピンと伸びる気持ちがありました。ジョークを交えながらの発表もあり、いつしか緊張もほぐれていました。今後の高校生活では、学業だけでなく、「自分の特技を見つけること、作ること」がこれからの大学受験や就職活動に大いに役立つことをお話いただき、とても印象に残りました。私は今、バレー部でマネージャーをしています。裏方のプロを目指して（これも特技の一つかなと思い）放課後はもちろん、休日も練習や試合のため休まず参加しています。授業も皆

勤ですが、部活も皆勤を目指しています（これも特技の一つかな）。このためには、健康管理も重要です。丈夫に産んでくれた母にも感謝しています。ただ、学業はおろそかになりがちで担任には叱咤、激励を浴びています。今後は両立に向けて、工夫と努力をしていきたいと思っています。

夏の研修会では、ディベートやスタントを先輩方のリーダーシップの元に、班の仲間たちと協同し、課題をこなしてきました。取り組みの一翼を担うためには、リーダーをサポートするフォローアップを身につけることも大切だと気づきました。

一年間という短い期間でしたが、学校や学年の垣根を越えて交流させていただき、ありがとうございました。先輩方から学んだことを色々な場面で活かしていきたいと思えます。卒業後もOBとして、私たちにご指導よろしく願います。

次回の研修会では、新一年生を迎えます。また、八正会の皆さんとお会いできることを楽しみに暖かい春を待ちたいと思います。

一年間

岡山芳泉高校一年 笠 笑 太

あの期待と不安を胸に芳泉高校に入学して早いものでもう一年が過ぎようとしています。この一年間を楽しく、しっかり学び、笑ってこれたのは、支えてくれた先生方、友達、家族のおかげであるのもちろんのこと、とても感謝しています。そして僕はもう一つ感謝しているものがあります。それは、僕のクラスである「一年二組」です。一年二組は先生や友達に恵まれたとても良いクラスです。今回は、その一年二組から学んだことや一年二組の紹介をしたいと思います。

僕が四月に入学して、一年二組としての生活がスタートしました。クラスには友達が一人しかいませんでしたが、その彼がいたといなかったでは、かなり違ったのではないかと、思っています。

一年二組の迎えた最初の行事は「芳泉合宿」という宿泊研修です。この宿泊研修でクラスの人達がどんな人なのかを大体把握することができ、友達もたくさん増えました。スタンプをクラスごとに発表しなければならなかったので、

そこでもクラスがまとまることができました。表彰はされなかったけどみんな楽しく演技できたので二組の笑顔も増えてきました。

次の主な行事は「蒼碑祭」(文化祭)です。これは、体育の部と文化の部に分かれており、体育の部では応援合戦と体育祭、文化の部ではクラス展示でクラスごとに競い合いました。どちらの分野でも上位に入賞でき、準備でも二組らしさが見えてきて、二組が一つになってきたのもこの時期だと思います。

そして最後に球技大会、これは男女に分かれてクラス対抗で男子はサッカー、女子はバスケットで競い合うものです。お互いのスケジュールが合えば応援にもかけつけて、二組が完全体となった行事だと思っています。

そして最も二組らしさが出ているのは、普段の学校生活だと思っています。他のクラスは、チャイムと同時に授業が始まるそうですが、チャイムと同時に皆が教室へ駆け込み、いすに帰るのが二組、午後の授業は多くの人があつらうつらしながらなのが二組、誇れることではありませんが、そんな二組が大好きです。この二組ほど「やるときややる！」のフレーズが合うクラスはおそらくないと思います。僕の高校生活の基礎となる一年間をこの一年二組で築けて「良かった」というよりも、「幸せ」と言ったほうがいい

いのかもしれません。立場的には、たくさん勉強してたくさん学ばなければならぬのですが、この一年間で勉強よりも大切なものをたくさん学んできました。この一年で知識が増えたのはもちろん、心もかなり成長できました。この成長は二組でないと無かったと思います。

「二年二組」、ありがとうございます。

新年

倉敷古城池高校一年 木田 杏奈

年があけてあまり経っていないけど、今年は初めて経験することが多かったです。今回はそのことについて書きたいと思います。

まず一つ目は、コンサートに行ったことです。私はK-POPが好きで、今回は私が特に大好きなグループのコンサートに行くことができてとてもうれしかったです。コンサートを見ることはもちろんすぐく楽しかったですけど、他にも楽しかったことがあります。それは、着て行く服をきめることや、会場に来ているファンの方々と話せたことで

す。やっぱり同じ趣味をもっていると初めて会った人でも、年が違って関係なく盛り上がるのができて良いなと思いました。また行きたいです。

二つ目は、スキー・スノーボード実習に行ったことです。学校が終わってからすぐバスに乗ってスキー場にむかっただんですが、朝学校についてからずっと楽しめました。バスで移動中もスキー場に近づくにつれてだんだんと雪景色になっていってとてもキレイでした。実習が始まって一日目ははけるばかりだったけど、二日目にはほとんどこけずにスイスイすべることができてうれしかったです。でもリフトに乗るのは何回乗っても怖くて慣れませんでした。初めてのスキーで不安だったけど、すぐ楽しめたので良かったです。大人になってからまた行きたいと思いました。

三つ目は、私の誕生日です。クラスの人達でコルクボードを作ってくれたり、黒板にメッセージを書いてくれたりしてすごく、すごくうれしかったです。

今回、色々なことを経験することができて良かったです。高校生になって一年。一番思うことは、「時間がたつのが早い!!」本当にあつというまの一年間でした。だから、今年をもっともつと色々なことに挑戦して、色々な経験をしていきたいです。

編集後記

『蛇にまつわるお話』

今年の干支は「蛇」。ヘビは現在約二六〇〇種が確認されていると言われています。ヘビの目は一般的には見えるが、色を見分けることはできないと考えられているそうです。よく見えない分、ピット器官といういわば赤外線スコープのような熱の温度を感知することのできる器官を備えているのです。また、舌をぺろぺろさせるのはにおいのつぶを集めて、においを感じるヤコブソン器官といわれるところに運んでいるそうです。身近に生息している生き物ですが、ある地域では神に近い存在として、またある所では悪魔の使いとして恐れられてきた存在です。

蛇のことわざにもいろいろなものがあります。

「藪をつついて蛇を出す（やぶへび）」とか、「蛇（じゃ）の道は蛇（へび）」「蛇ににらまれた蛙」などなど。

「常山の蛇勢（じょうざんのじゃせい）」：首尾相応じて攻防し、敵の乗ずるすきがないようにする陣法。また文章が首尾照応して各部分の関係が緊密で一貫しているものにもたとえる。…これは良い時に使われるものですね。

「蛇足」ですが、中学校時代に書いた作文を恩師に見て頂いた時に、「竜頭蛇尾」の作文！と一蹴されたことも思い出しました。今回もそのような原稿になったかと思います。

《正月料理で重（へび〜）になったYUA》

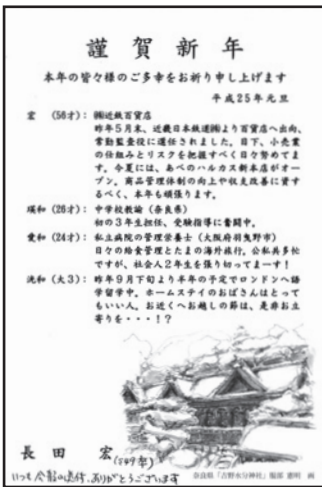
年賀状



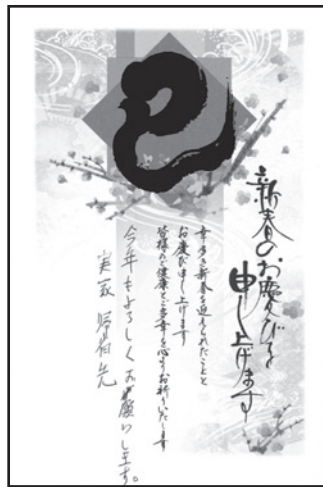
●平成1年卒 河上 敦



●昭和55年卒 宮田 正美



●昭和49年卒 長田 宏



●昭和51年卒 柳村 賢一郎

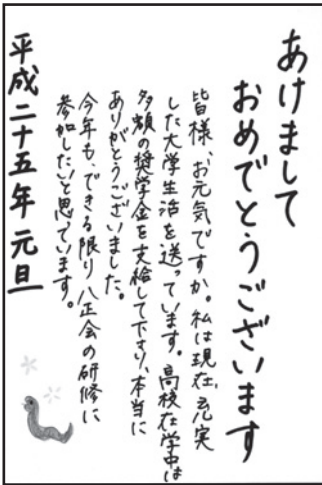


●昭和60年卒 垣内 顕治



●平成13年卒 近藤 弥生

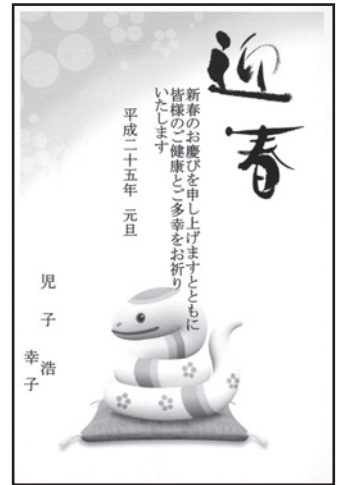
年賀状



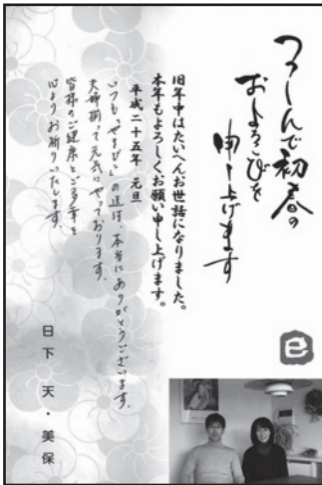
●平成24年卒 後藤 千尋



●平成6年卒 宮川 由佳子



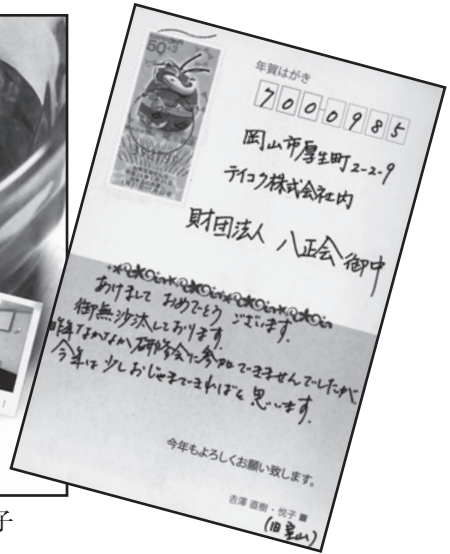
●昭和37年卒 兒子 浩



●昭和62年卒 日下 天



●平成2年卒 吉澤 悦子



～ 事務局よりお願い ～

卒業や結婚、転勤等で引越された場合は、必ず事務局まで転居先をご連絡下さい。

巻末に「住所変更連絡はがき」を添付していますのでご利用下さい。

また、八正会のホームページ (<http://www.hasshoukai.or.jp/>) のお問合せ欄からメールで送っていただいても結構です。

八正会

検索

発行責任者
発行者

玉井義郎

公益財団法人 八正会（トンボ育英事業団体）

郵便番号七〇〇―〇九八五

岡山市北区厚生町二丁目二番九号

株トンボ内 電話〇八六―二三二―〇三二一

印刷所

協同精版印刷株式会社

平成二十五年三月